

○議長（河野） 5 番、森繁樹君。

○5 番（森） はい。議長。

○議長（河野） 森君。

○5 番（森） 5 番、森です。

○議長（河野） 森君。

○5 番（森） それでは、通告に従い一般質問をさせていただきます。

「20 周年を記憶に残るものに」。

来年度は喜ばしいことに綾川町合併 20 周年を迎えます。それに関して質問をさせていただきます。

1、10 周年の際には、「綾川町合併 10 周年記念 PR 事業」を行う者に対し補助金を交付したと思います。これの結果、何事業に交付し、総額いくらだったのか、またその結果・効果を教えてください。

2、来年度は 20 周年を、どのようなことを行うと考えているか教えてください。

3、また提案ですが、「ギネス世界記録」に挑戦してみてもはどうでしょうか。

いくつかの事例を紹介します。

埼玉県吉川市では市制施行 20 周年で吉川産米を使って、「同時に食べさせ合うペアの最多数」という記録に挑戦しました。おにぎりを一緒に食べさせようという。850 ペアでした。

これは一例ではありますが、非常に数が多くとても大変な取り組みである反面、メディアが動くので PR という点では効果が高かったと思います。

また、長崎県ですけれども、新上五島町では、市政 10 周年の記念イベントで特産品である「五島手延うどん」を使って、「連続して流し麺をキャッチした最多人数」という記録に挑戦。165 人で挑戦し、110 という記録でギネス世界記録を達成しました。

ギネス認定には、挑戦内容にもよりますが、お金や時間がかかるという困難な点もありますが、非常にメディアを利用した PR 効果も十分にあると思います。

また、こういったケースもあります。

自治体ではありませんが、大川青年会議所が、小麦産地の筑後平野にちなんだ世界記録を目指そうと、1,430 メートルの世界一長いうどんに挑戦。目標手前で断念するも記録を更新。登録料の問題でギネス更新への申請を見送りましたが、達成感のなか、うどんをすすったというものです。

この記録は現在更新されていますし、長い麺の挑戦はギネス非公認で各地で行われています。非公認であっても、目標に向かってみんなで挑戦するという事は、子どもたちにとってもいい要素ですし、達成感を味わえるとはあると思います。

時間や予算など限りあるものの中で行う事として厳しい部分もあると思いますが、現在行っている比較的人が集まっているイベントと併催し、その中のひとつのコンテンツとして開催することも視野に入れ、検討してみてもどうでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

1点目の、「綾川町合併10周年記念PR事業の補助金交付」であります。平成28年度に綾川町合併10周年記念PR事業補助金といたしまして、7件の申請に対しまして1件あたり10万円、合計70万円を交付しております。内容については、イベントに10周年の冠をつけてもらうものや、綾川町の農畜産物を使った食材でのPRなど、様々な趣向を凝らしたものとなっており、皆様の力をお借りして、各方面に綾川町合併10周年のPRができたものと思っております。

2点目の、「来年度は20周年としてどのような事を行うか」についてであります。令和7年度及び令和8年度に予算を計上し、実施予定であります。具体的な計画はこれから策定をしておりますが、令和7年度には大阪関西万博2025と、香川県では瀬戸国際芸術祭があります。国外及び県外から、大勢の観光客の来県が見込まれるところがあります。この機会に綾川町のことも知っていただき、綾川町に足を運んでいただけるような魅力的な発信をしていきたいとこのように思っております。

3点目の、「ギネス世界記録への挑戦」についてであります。10周年の記念PR事業については、補助金により綾川町のPRに大きな効果があったと思っております。記念式典については、時期も含めてこれから検討していくこととなりますが、PRイベントは綾川町主催ではなく、各方面、各団体の皆様の力もお借りして、20周年を盛り上げていけるよう、より幅広い事業に交付できるような、20周年記念PR事業の補助を検討をしております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（河野） 再質問はございませんか。

○5番（森） はい、議長。

○議長（河野） 森君。

○5番（森） 答弁ありがとうございました。

これから考えていくということですが、10万円の補助を7件行ったということですが、例えばそれをドーンと集めて、ドーンとおっきいものを行うっていうことのアプローチ、シミュレーションを、比較してどうっていう検証も行っていただきたいなと非常に思っています。

で、ドーンと行うっていうところに20周年というか、町政ってやっぱこうみんなで作ってきたものなので、町民の人にもしっかり参加してもらうっていう形っていうのが非常に大事だと思うんで、そういう意味では、10周年のときの補助事業っていうのはそういう意味ではいいと思うんですけども、大きく、アップデートしたものをするっていうところに関して、実行委員会の立ち上げっていうのはどうでしょうかって

うのをちょっと提案させていただきたいなと思います。

で、これを募集募ってやりたいな、盛り上げたいなっていう気持ちのある人に、しっかりやってもらいつつも、舵取りは町がしていくのかなとも思うんですけども、そういった方向性っていうのはどうでしょうかっていうところが1つ伺いたいというところですよ。

その中の、ドーンと行う事業の1つの例としてギネスがあるだけであって、盛り上がるものであったら僕は何でもいいとは思いますが、そういうところも視野に入れていただきたいなというところと、ギネスのこと僕やっぱを推したいのでちょっとギネスの事も話をさせていただきたいんですけども、なかなか850ペアとかなかなかこうちょっと無理だ、難しいなというところとかあると思うんですけども、新しいものを申請するっていう形もありますんで、なかなかその審査基準って記述厳しいところっていうふうにも聞いてますが、それが、もし通るなら、これは良いものになるんじゃないかなっていうところがちょっと僕の思うところあります。

あと、これ通告にもしてないんであれですけども、生徒や学生とか子どもたちに、これ企画をさせるっていうのも、1つの何か目標を達成するっていうところに、それをもう決めるところから、子どもたちがするっていうのは教育的にもいいと思うんで、そういうふうな観点からも、経済とは別で、考えていくっていうところはどうかかって、これは要望として検討していただけたらと思います。

そういう観点でいくと、もう全課がやっぱり、関わることで、いろんな案出して、20周年盛り上げるものになっていただけたらなと思います。要望ばかりだったんですけど最初のところの答弁をお願いしたいと思います。

○議長（河野） 宮前総務課長。

○総務課長（宮前） はい、議長。

○議長（河野） 総務課長。

○総務課長（宮前） 森議員の再質問についてお答えをさせていただきます。

まず1点目の、10周年の際に、10万円を7件の事業の助成ということではございましたけれども、これを集約して、大きい事業として活用、またシミュレーション検証してはどうかというところと、実行委員会を設置して、その内容について協議、検討していただければという要望もありましたけれども、これにつきましては10周年の際にも当時、実行委員会を設置して、内容について協議をしておるところでございますので、今回20周年につきましても、この部分につきましてはこれからも検討という余地はあろうかと思っております。

また2点目の議員のイチオシというところになるのでしょうか。ギネスというところではあるんですけども、内容的なものにつきましても、どういったものができるかっていうのをまず検証していかなければならないというふうに思いますので、実行委員会等が立ち上がった場合ですね、また検討もしますし、各種関係団体においてもそのギネスっていう部分について、もし提案があればその辺の議論・研究もしていくという

のも当然出てくるのかなと思います。

いかんせん限られた費用の中ではございますので、まずもっては住民の方の参加、20周年を感じていただける事業っていうのを、我々としては考えていきたいというふうには思っております。

また児童生徒等からの提案を受けてというところではございますけれども、これにつきましても、関係機関、学校等も含めまして、20周年に向けた、これは学校としての取り組みっていうのもあるかと思えます。

そういう部分も含めまして打診をいたしまして、学校なら学校なりの取り組みというのも考えていただければ、いいのかないうふうに思ったりしておりますので、すべてにおきまして関係機関とも連携しながら、これから検討してまいりたいというふうに思いますのでよろしく申し上げます。以上、答弁とさせていただきます。

○議長（河野） 福家いいまち推進室長。

○いいまち推進室長（福家） はい。

○議長（河野） 福家君。

○いいまち推進室長（福家） 森委員の質問に補足で答えさせていただきます。総務課長、答弁の通りであります。関係人口の創出、地方創生の担当課といたしまして、森委員のご質問、ご意見はですね、非常に参考になるものと思っております。

特に、大きなものをみんなで開催するという点につきましては、現在、いいまち推進室の方で進めております過疎地域活性化事業の方にも、共通のことでありまして、これは地元住民の方がみずから考えて、イベント等について考えるようなことでございまして、そういったところも、これから進んでいきますので、参考にしたいと思っております。

もう1つですね、生徒や学生に考えさせるというところでございますが、地方創生総合戦略の中の、KPIの方にもあります通り、地域に愛着を持たせるという観点もございまして。生徒や学生にこういったところを考えさせることで、地域に愛着、シビックプライドの醸成にもつながると思っておりますので、関係機関ですね、連携して取り組みたいと思っております。以上でございます。

○議長（河野） 再々質問はございませんか。

○5番（森） はい。議長。

○議長（河野） はい、森君。

○5番（森） たくさん答弁ありがとうございました。この一般質問のみならずですね、これからも、僕らも、僕らって言っちゃった、僕も意見をしっかり出して提案させていただきたいと思えますし、住民の皆さん、町、そして議会も、もちろん盛り上げる気満々でございますので、どうぞ、みんなの心に残るものに、そして30周年、40周年、50周年都市となっていけるように、アップデートしていきたいなと思っております。ありがとうございました。

○議長（河野） 以上で森君の一般質問を終わります。